

半導体漫遊記

湯之上隆

(27)

10月18日の本コラムで、福島県の南相馬市が、陸の孤島と化し、国や県から「地産地消」を勧告され、除染ができていないのに緊急時避難準備区域が解除されたことを報じた。



福島第一原発から20キロの立入禁止区域

斜面沿いの草むらなど、多数の箇所、毎年100シールドベルトを越える放射線量が検出された。正確に言う、この検知器で測定できる最大値が毎時10シールドベルトだったため、斜面沿いの草むらなど、多数の箇所、毎年100シールドベルトを越える放射線量が検出された。正確に言う、この検知器で測定できる最大値が毎時10シールドベルトだったため、

南相馬で放射線測定

ミニホットスポット多数存在

振り切れてしまったの、ミニホットスポット多数存在。正確な値は分からないが、毎時数十シールドベルト、ミニホットスポット多数存在している。正確な値は分からないが、毎時数十シールドベルト、ミニホットスポット多数存在している。

表 放射線被ばくと健康との関係

	年間被ばく線量	1時間当たりの線量
半数が死亡する線量	3 シールドベルト	342 マイクロシールドベルト
患者が増加する線量	0.1 シールドベルト	11.4 マイクロシールドベルト
日常生活で浴びる線量	2.4 ミリシールドベルト	0.27 マイクロシールドベルト

兆円の予算が付いた。南相馬市の予算は1300億円である。この予算に対して、南相馬市が300社の除染業者を公募したところ、全国から3000社が殺到しているという。しかし、これら300社が除染技術を持

っているとは到底思えない。恐らく業者は、土の表面を削り、高圧放水で洗えばいい、そういう単純なことしか考えていないのではないかと。まるで砂糖に群がるアリのような。このまま行くと、1兆円などはあつという間に消えてなくなり、それでいて放射線量は一向に減らないだろう。福島県民全員が携帯できて、「ミニホットスポット」に近づくと警報を発する「たまたま型放射線検出器」を一刻も早く開発して届けなくてはならない。今回の南相馬市訪問で、決意を新たにしたい。半導体技術者・社会科学者